

事務事業名	木次健康温泉センター管理事業	所属部	木次総合センター	所属課	事業管理課
政策名	総合計画体系 (V)賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》	所属G	産業振興グループ	課長名	菅田雅人
施策名	(35)観光の振興	担当者名	安部哲男 小林 等	電話番号 (内線)	0854-40-1082 4271
基本事業名	(104)観光資源の開発・充実	予算科目	会計 款 項 目 011 315 015 210 111	中事業	木次健康温泉センター管理事業

1 現状把握の部

(1)事業概要

①事業期間	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度)	<p>当事業は、木次健康温泉センターおろち湯ったり館の管理にかかる事業である。平成18年度からは、木次都市開発㈱が指定管理者として管理運営を行っている。</p>	<p>平成5年、東日登で温泉開発に成功。平成9年木次健康温泉「おろち湯ったり館」オープン。直営管理でスタートし、平成14年木次都市開発㈱に管理委託を開始した。平成18年度より指定管理制度を導入し、木次都市開発㈱が指定管理することとなった。</p>

(2)トータルコスト

①事業費の内訳(概要)	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	全体計画
需用費(修繕費) 4,542千円 指定管理料11,415千円 使用・賃借料162千円 備品購入費262千円 工事請負費19,840千円	事業内訳						
	国庫支出金	千円					
	県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円	0	2,359	22,400	5,300	
	一般財源	千円	12,313	11,687	13,821	12,534	
	事業費計(A)	千円	12,313	14,046	36,221	17,834	0
②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)	人件費	人	3	3	3		
①指定管理・リース等契約手続き②修繕対応③指定管理者との協議	正規職員従事人数	人	3	3	3		
	延べ業務時間	時間	1,085	1,057	1,694		
	人件費計(B)	千円	4,138	4,110	6,678	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	16,451	18,156	42,899	17,834	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動)	⑤ 活動指標							
	①指定管理・リース等契約手続き②修繕対応③指定管理者との協議	ア 契約件数	人	7	8	17	8		
	24年度計画(24年度に計画している主な活動)	イ 修繕・工事費	千円	736	1,903	24,382	5,300		
23年度と同じ	ウ 入浴客数	人	114,492	112,660	111,398	113,000			
		エ							
		オ							

目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	①雲南市民 ②市外入浴者	⑥ 対象指標							
		ア 雲南市民人口	人	42,402	41,917	41,159	41,032		
		イ 市外来場者	人	73,274	72,102	71,294	72,100		
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標							
	①心身の健康維持、増進を図る。(市民) ②観光の発展と地域経済への貢献。(市民と市外来場者)	ア 入浴者数	人	114,492	112,660	111,398	113,000		
		イ 収入額(入浴料)	千円	45,733	44,686	43,683	45,000		
		ウ							
④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標								
①雲南市を訪れてもらう。②市内で消費してもらう。	ア 観光入込客数	万人	88.4	93.6	95.0	95.0			
	イ 観光消費額	百万円	3,846	3,771		4,133			

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	② この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
<p>温泉施設の衛生管理対策が厳しくなり、厳格な管理が必要となっている。オープンから10年以上が経過し、機器類の更新・修繕が増加している。中期的な修繕計画を確立する必要があると思われる。また近隣に温泉施設がオープンし、入浴者数に影響があった。</p>	<p>指定管理者である木次都市開発㈱と連携をとり、施設改修等を行い集客力維持に努めている。来年度は、バイオマス事業を予定している。</p>	<p>入浴年会員から、修繕期間中についての要望がある。宴会営業に関しては、地元既存店より民間営業の圧迫との声がある。 指定管理者からは、会員制度の見直し、施設・機器の早期修繕の要望がある。</p>

事務事業名	木次健康温泉センター管理事業	所属部	木次総合センター	所属課	事業管理課
-------	----------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 雲南市の観光の一翼を担っている。併せて、市民の健康増進や地域の活性化にも繋がっている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 雲南市の観光の一翼を担っている。併せて、市民の健康増進や地域の活性化にも繋がっている。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 入浴者を市民のみに絞ることは施設の性格上できない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 施設の改修や新たなソフト施策により成果の向上(入浴客の増)は期待できる。市内外に多数ある温泉施設との競合により、独自のコンセプトの明確化が必要ではないか。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 観光客、交流人口の減少に繋がる。市民の健康増進のための利用施設が減少する。併設されるサンワークすきすとの相乗効果が失われ、サンワークすきすきの利用減少につながる。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) 木次勤労者総合福祉センター管理事業 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 隣接する木次勤労者総合福祉センターとは一体的に利用されることにより相乗効果がある。また市内の観光施設やトロッコ列車などの連携により成果の向上の可能性はある。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 入浴客が増加し収入が増えれば、指定管理料の削減が可能となる。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託できないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 修繕予算のない中での緊急対応にかかる組織内協議に要する時間をはぶくことができれば業務時間を削減することは可能。指定管理者の修繕権限の移譲など。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 基本的には一律に入浴料金を徴収している。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	風呂施設改修後は、利用客の増加となったものの、近隣に温泉施設がオープンし、入浴者の分散が予想される。桜祭り、トロッコ列車などとの連携や古事記編纂1300年にあわせオロチをイメージした当施設をどうアピールしていくか検討が必要である。																					
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
10年以上経過した施設の大規模修繕が喫緊の課題であるとともに、指定管理料が流動化(利益分=減額)されている中で、機器設備の技術員の育成支援や、ソフト施策にかかる経費支援が必要となってくる。																						